


アートで非認知能力を育む子どもの居場所

取組開始時期	2011年	取組の カテゴリー	児童福祉	応募部門 (○を付ける)	PF会員間連携部門	○	一般部門
1. 団体名	特定非営利活動法人アートコミュニ ティ		2. 連携先 の団体	社会福祉法人大阪ボランティア協会 ・河内長野市社会福祉協議会			
3. 取組 目的	アートを取り入れた子どもの居場所開設			4. 関連する ゴール			

5. 取組経緯

子どもの貧困問題が大きく取り上げられ、子ども食堂が持てはやされた折り、疑問に思ったことがある。子どもの幸せは長期的に考えると、食ではなく「生きる力」→自制心・やり抜く力・自立心などを育むことではないか？ではどうすればよいか？結果、長年取り組んできた非認知能力を高める児童絵画を取り入れた「子どもの居場所」を設立することになった。

6. 取組概要（100字以内） ※1次選考にて、投票ページに掲載します

子どもの居場所以外に、子どもの来ない時間を使用し、・手の離せない幼児を抱えるママのクラブ・ママの自立の為にパソコン講座・高齢者の集まり等への施設貸し出しをする。（無料）

先に宿題をしてから



取組のポイント（3つの視点）

地方創生SDGsの視点

子どもの居場所活動の一番の目的は、子どもが豊かな気持ちになれる場所になる事である。粘土・紙などの造形、お絵描き、読書、ピアノ、おしゃべり、悩み相談。すべてが未来の豊かな社会を担う基になる。

ステークホルダーとの連携

入居先商店会・市教育委員会・市立国際交流センター
うまくいった点・教育委員会の取り計らいにより、イベント等のチラシを全校に配布することが可能になる。・商店会に入ったことで、施設の使用などを優遇される。

モデル性・波及性

・アートで非認知能力を高める子どもの居場所が無いのでその存在を注目されている

7.取組詳細 (取組内容の詳細及び取組によって得られた成果、今後の方向性等)



アートで育む子どもの居場所「ヒーロー研究室」は親も子ども非認知能力を育む声かけや、イベント等も開催する。手の離せない子どもを抱える母親の為のMAMA×MAMAクラブでは、母親の心のケアだけではなく再就職の為にレベルアップとしてエクセル教室、イベント企画・立案・運営などの体験をし、それぞれが自立再就職し活躍している。就職しない人は、子どもの居場所のイベント等の運営を手伝っている。当居場所で宿題課題を勉強し、中学・高校へ進学した子どもたちも時折顔を出し、近況を伝える。この形が循環していくことを願っている。(運営は、プロの画家3名)

